

◆国語科の目標

【知識及び技能】

【思考力・判断力・表現力等】



「話す・聞く」「書く」「読む」「言語・文化」に関して、目的や意図に応じ、理解した内容を効果的に活用し、根拠を明確にしながらかいたり、話したりし、ものの見方や考え方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】

→ 知識・技能の獲得や、思考・判断・表現の充実に向け、粘り強く取り組む態度と、その取り組みの過程において自ら試行錯誤しながら学習を進めようとする態度を充実させる。

	単 元	学 習 内 容
一 学 期	1 広がる学びへ	「作文」：意見文の書き方 「見えないだけ」：「詩」を読み味わう。 「アイスプラネット」：登場人物の言動や心情を読み取る。 「枕草子」：作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ、自分の感じ方と比べる。
	2 多様な視点から	「クマゼミ増加の原因を探る」：構成を捉え、説明の工夫を考える。 「魅力的な提案をしよう」：資料を示してプレゼンテーションをする。 「『自分で考える時間』をもとう」：メディアの特徴を知り、まとめる。 「書写」：行書（漢字と仮名を調和させて書く） 「文法1」：単語の分け方
	3 言葉と向き合う	「新しい短歌のために」：短歌についてまとめ、筆者のものの見方・感じ方をとらえる。 「短歌を味わう」：短歌を読み味わう。 「言葉の力」：筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。
二 学 期	4 人間のきずな	「盆土産」「字のない葉書」：人間や家族のもつやさしさ、愛情を読み取り、家族のきずなや人間関係についての考えを持つ。 「表現を工夫して書こう」：手紙と電子メールの違いを意識して書く。
	5 論理を捉えて	「モアイは語る」：事実や根拠を確かめながら、筆者の意見を読み取り考えを深める。 「根拠の適切さを考えて書こう」：意見文を書く。
	6 いにしへの心を訪ねる	「平家物語」「扇の的」「仁和寺にある法師」 ：古典を音読し、場面や状況、人物の心情を読み取る。 「漢詩の風景」：漢詩の基礎知識を理解し、読み味わう。
	7 価値を語る	「君は『最後の晚餐』を知っているか」/「『最後の晚餐』の新しさ」 ：筆者のものの見方や考え方を読み取る。 「書写」：行書（書き初め） 「文法2」：用言の活用
三 学 期	8 表現をみつめる	「走れメロス」：作品を読み味わい、人間の生き方や考え方について自分の考えを持つ。 「表現のしかたを工夫して書こう」：物語を自分の言葉で表現する。 「国語の学びを振り返ろう」：1年間の学びを振り返り、次年度に生かす。 「文法3」：助詞・助動詞

※ 各学期、上記の単元の他に適宜「言葉の知識に関する事項」、「言葉の表現に関する事項」についての学習を行う。

ss○副教材：担当の教師により、年度当初に説明がある。

主に、家庭での学習を補助する問題集や漢字、文法の知識を付けるためのワーク、総合的な学習成果を測るためのテスト問題などを利用する。

また、3年間を通して使う資料集、文法テキストなどがある。

学習補助教材として、オンライン上のアプリやキュービナ等も利用する。

○評価について

・評価の観点…次の3観点について、ABCで評価する。

- ①知識・技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

・評価方法

- 1、授業中の活動（態度・発言・自己評価・相互評価など）による意欲。
- 2、課題の提出、小テスト、実力テストなどによる学習状況、発表、学習成果の確認。

○評定は、AAA 「5 または 4」
AAB 「4」
ABB・AAC 「4 または 3」
BBB 「3」
BBC・ACC 「3 または 2」
BCC 「2」
CCC 「2 または 1」

※ 上記を原則とするが、評価の基準に照らし合わせ、同じ評価であっても評定が変わる場合がある。特に、すべての観点の評価がAであっても「4」になることがあることに注意する。

※ 欠課が多い場合は、観点別評価がいずれもCまたは評価不能になる場合がある。

○学習方法

- ・毎日の授業に集中して取り組む。積極的な姿勢が内容の理解を深める。
- ・学習した内容を活かし、表現につなげる練習を意識的に行う。
- ・指示された提出物や課題は計画的に進め、期限を守る。わからなければ人に聞く。
- ・教科書の本文を繰り返し読むこと。特に古典の暗唱などは、繰り返し声を出して読むようにする。
- ・普段から本や新聞など文章に触れる機会を作る。
- ・文法は多くの問題にあたって慣れる。
- ・漢字は大きく、一点一画を丁寧な字で書くよう心掛ける。

○定期テストについて

これまで同様、各単元の課題や小テストによって観点別の評価を行うが、それ以外に、国語の総合的な知識や理解度、主体的な学習の成果を測るために実力テストも実施していく。それに伴い、実力テストを実施した学期については、各単元の評価を個別に行っていることや、実力テストによって総合的な学習成果を測っていることから、基本的に定期テストを実施しない。

○「国語A」「国語B」について

主に文学的文章及び説明的文章を「国語A」、古文・漢文及び言語事項等を「国語B」とし、二人の教員がそれぞれを全クラス担当します。週に4時間ある国語のうち、週に2時間ずつ授業を行います。各学期の評価・評定は「国語A」「国語B」をあわせたものになります。

※「国語A」…松村 「国語B」…山本